

F★★★★
ホルムアルデヒド放散等級

未来を築く次世代の選択

LUXE MUKI

外壁用

水性1液超高耐候性無機有機ハイブリッド塗料

ラグゼMUKIトップ

弱溶剤形2液超高耐候性無機有機ハイブリッド塗料

ラグゼMUKIトップマイルド

 **KANSAI**
PAINT

ハイブリッド無機 その選択が 未来を創る。

無機と有機の融合から生まれた次世代塗料、
「ラグゼMUKIシリーズ」。

ハイグレードの耐候性が

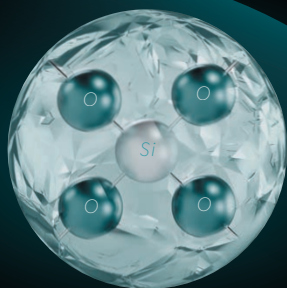
建物を長寿命化へととざないます。

塗り替えサイクルを最適にする選択が、

未来の安心を形にします。

無機のを活かす 無機有機ハイブリッド技術

当社独自の「無機有機ハイブリッド技術」により、『強さ』と『柔軟性』を融合した塗膜が
超高耐候性を発揮。過酷な環境から建物を長期に保護します。



強さの無機

無機成分は、太陽光(紫外線)や酸性雨などにも
強く耐久性が高いのが特徴。
硬く強い反面、脆さという性質がある。



柔軟性の有機

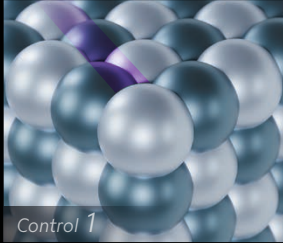
有機成分は、建物の動きや変形にも対応し、
ひび割れや剥がれを防ぐための
高い柔軟性が特徴。

紫外線劣化に耐えるラジカル制御技術

過酷な環境に曝される建物。特に紫外線は、塗膜や素材を劣化させるため、
紫外線に強い塗料選びが大切です。

4つのラジカル制御技術で、塗膜劣化の原因物質「ラジカル」の発生を根本的に抑えます。

動画でチェック



Control 1 高性能ハイブリッド無機

超強力な結合エネルギーを持つ「高性能ハイブリッド無機」で紫外線劣化を抑制



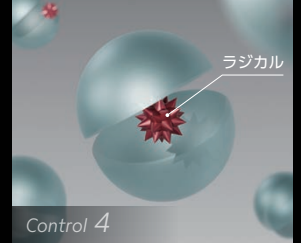
Control 2 UVトラップ

「UVトラップ」で紫外線を吸収し劣化を低減



Control 3 ラジカルバリアコート

酸化チタンへの紫外線到達によるラジカル発生を抑制



Control 4 HALSラジカルキャッチャー

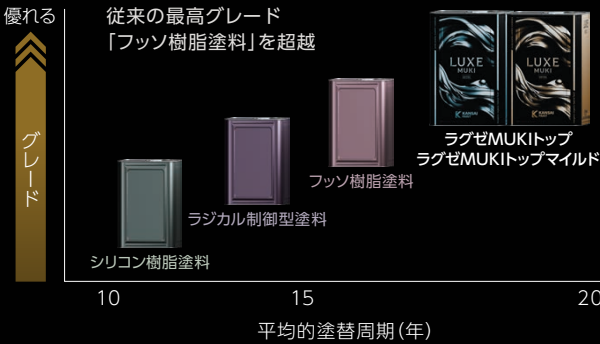
極微量すり抜けた紫外線によって発生したラジカルは「HALSラジカルキャッチャー」で捕獲し無害化

Fusing Technology

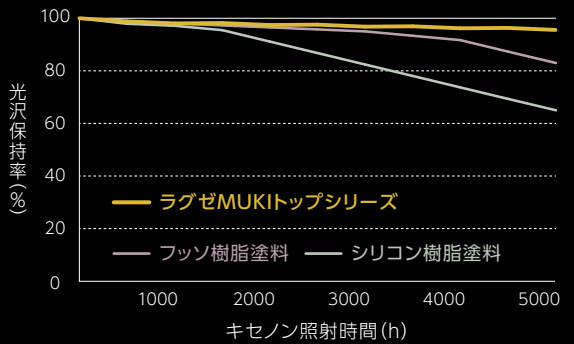
「無機有機ハイブリッド技術」と「ラジカル制御技術」の融合

「ラグゼMUKIシリーズ」は、紫外線に強い超高耐候性のハイブリッド無機と、
ラジカル制御技術を融合したハイグレードの塗料です。

塗料のグレード

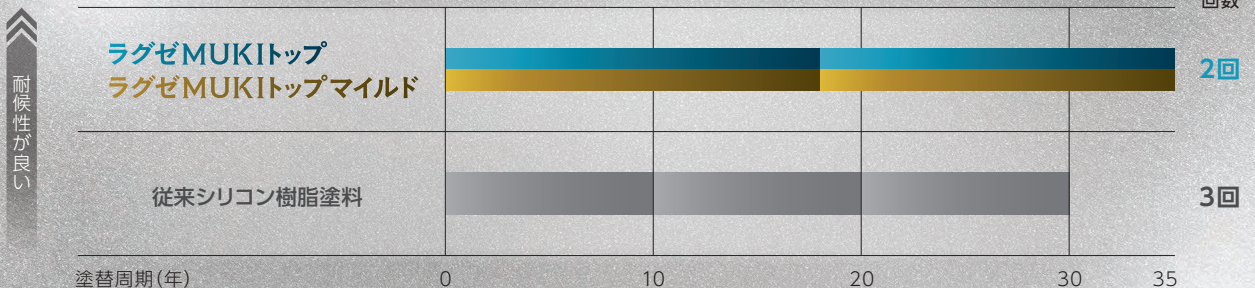


促進耐候性試験結果



塗り替えサイクルを考えた最適な選択を

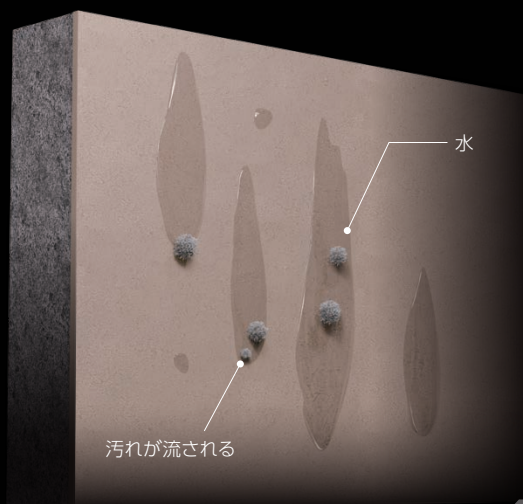
塗り替え工事の頻度を少なくできる塗料選びで、長期的な視点でコストパフォーマンスを向上します。



※塗り替え年数は目安です。建物の立地条件や環境などによって異なります。

超低汚染

親水性の塗膜を形成することで、付着した汚れを雨水が流し落とします。雨だれ等を低減し建物の美観を維持します。



親水性膜(水に濡れやすい塗膜)

屋外バクロ試験結果(6ヶ月 当社比)



ラグゼMUKIトップシリーズ



従来シリコン樹脂塗料

親水性が高いと汚れが落ちやすい

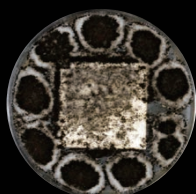
防カビ・防藻性

湿度の高い建物の北側などで発生しやすい、カビや藻の発生を抑制し、建物の美観を維持します。

防カビ性



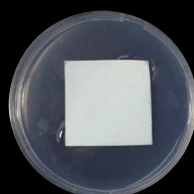
ラグゼMUKIトップシリーズ



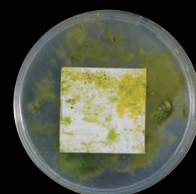
比較

防カビ・防藻剤を有さない一般塗料

防藻性



ラグゼMUKIトップシリーズ



比較

防カビ・防藻剤を有さない一般塗料

良好な仕上り

抜群の塗りやすさに加え、肉持ちのあるしっとりとした高級感ある質感が仕上りを良好に保ちます。

弾性下地にも対応

硬い特性を持つ無機を、弾性下地にも追従する柔軟性を持たせ、ひび割れに強い塗膜を形成します。

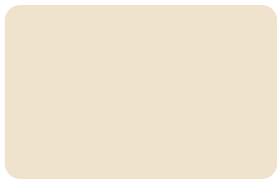
周辺環境にも配慮

臭気が少なく作業環境にもやさしい塗料です。

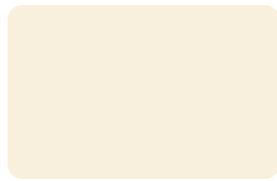
特性と幅広い素材適正

製品名	特性			素材適正				
	性状		臭気	コンクリート モルタル・ALC	窪業系 サイディング	金属系 サイディング	鉄・亜鉛メッキ アルミニウム	木部
ラグゼMUKIトップ	水性	1液	○	○	○	—	—	—
ラグゼMUKIトップマイルド	弱溶剤	2液	△	○	○	○	○	○

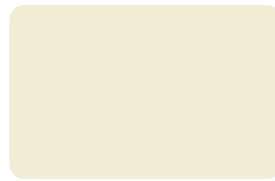
※各種素材に対し下塗りが必要となります



KP-111



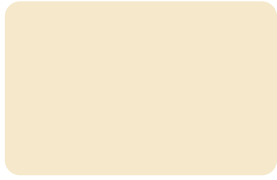
KP-110



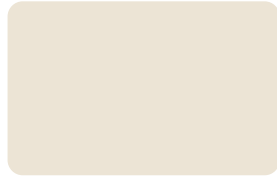
KP-112



KP-223



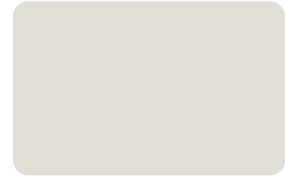
KP-310



KP-121



KP-133



KP-221



KP-120



KP-127



KP-131



KP-80



KP-337



KP-336



KP-141



KP-247



KP-330



KP-147



KP-350



KP-75



KP-347



KP-150



KP-352



KP-70



KP-356



KP-357



KP-368 ◎



KP-50



KP-367



KP-167



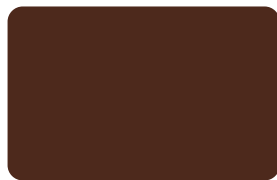
KP-376



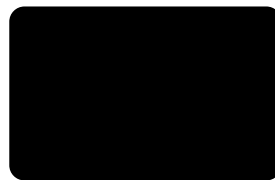
KP-379 ◎



KP-170



KP-385 ◎



KP-185 ◎

※この見本は印刷のため、実際の色とは異なります。色合わせの目的には使用できません。
 ※標準色以外でも日本塗料工業会色見本帳などでの調色も可能です。
 ◎印は、材料費が割高になります。

■ ラグゼMUKITOP標準塗装仕様

一般外壁仕様 **適用下地** 窯業系サイディングボード、コンクリート、モルタル、ALC、各種旧塗膜

工 程	塗料名・処置	荷 姿	希釈率 (重量%)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
素地調整	劣化した旧塗膜をディスクサンダー・スクレーパー・皮スキ・ワイヤーブラシを用いて除去する。エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去する。モルタルの場合、浮き・クラックなどは適切な処置を行う。窯業系サイディングボードの場合、欠損、シーリング材の劣化部などは適切な処置を行う。						
下 塗	アレスダイナミックシーラーアクア	ベース:12.5kg 硬化剤:2.5kg	0~10 (上水)	0.13~0.20	1	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー
上 塗	ラグゼMUKITOP	15kg 4kg	0~8 (上水)	0.12~0.14	2	2時間以上7日以内	ハケ・ローラー

※標準所要量は被塗物の素材・形状、塗装方法などにより増減することがあります。

一般外壁仕様 **適用下地** 窯業系サイディングボード、コンクリート、モルタル、ALC、各種旧塗膜

工 程	塗料名・処置	荷 姿	希釈率 (重量%)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
素地調整	劣化した旧塗膜をディスクサンダー・スクレーパー・皮スキ・ワイヤーブラシを用いて除去する。エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去する。モルタルの場合、浮き・クラックなどは適切な処置を行う。窯業系サイディングボードの場合、欠損、シーリング材の劣化部などは適切な処置を行う。						
下 塗	アレスダイナミックプラサフII	15kg	無希釈※1	0.25~0.40	1	4時間以上7日以内	中毛ローラー
上 塗	ラグゼMUKITOP	15kg 4kg	0~8 (上水)	0.12~0.14	2	2時間以上7日以内	ハケ・ローラー

※標準所要量は被塗物の素材・形状、塗装方法などにより増減することがあります。

※1 冬場など塗料粘度が高い場合は、上限2%まで希釈可能です。これ以上に希釈すると隠蔽性が低下したり、ひび割れ等が生じたりする恐れがあります。

一般外壁仕様 **適用下地** コンクリート、モルタル、ALC、各種旧塗膜

工 程	塗料名・処置	荷 姿	希釈率 (重量%)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
素地調整	劣化した旧塗膜をディスクサンダー・スクレーパー・皮スキ・ワイヤーブラシを用いて除去する。エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去する。モルタルの場合、浮き・クラックなどは適切な処置を行う。						
下 塗	アレスダイナミックフィラー	16kg	5~10(上水)	0.30~0.50	1	8時間以上7日以内	中毛ローラー
			1~5(上水)	0.80~1.50	1	8時間以上7日以内	多孔質ローラー
上 塗	ラグゼMUKITOP	15kg 4kg	0~8 (上水)	0.12~0.14	2	2時間以上7日以内	ハケ・ローラー

※標準所要量は被塗物の素材・形状、塗装方法などにより増減することがあります。

※下塗には、アレスダイナミック防水フィラー、アレスダイナミックシーラーマイルド、アレス水性エポキシ、浸透形Mシーラー、エコカチオンシーラー、アレス弾性ホルダー防水形なども使用可能です。

■ ラグゼMUKITOPマイルド 標準塗装仕様

一般外壁仕様 **適用下地** 窯業系サイディングボード、コンクリート、モルタル、ALC、各種旧塗膜

工 程	塗料名・処置	荷 姿	希釈率 (重量%)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
素地調整	劣化した旧塗膜をディスクサンダー・スクレーパー・皮スキ・ワイヤーブラシを用いて除去する。エフロ・レイタンス・ゴミ・汚れなどは、ワイヤーブラシ・サンドペーパー・ウエスを使用して除去する。モルタルの場合、浮き・クラックなどは適切な処置を行う。窯業系サイディングボードの場合、欠損、シーリング材の劣化部などは適切な処置を行う。						
下 塗	アレスダイナミックシーラーマイルド	ベース:12.5kg 硬化剤:2.5kg	無希釈	0.12~0.18	1	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー
上 塗	ラグゼMUKITOPマイルド	ベース:12.9kg 硬化剤:2.1kg	0~10 (塗料用シンナーA)	0.12~0.14	2	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー

※標準所要量は被塗物の素材・形状、塗装方法などにより増減することがあります。

金属面仕様 **適用下地** 鉄部・亜鉛メッキ・アルミ・ステンレス・ガルバリウム鋼板・金属サイディング・各種旧塗膜

工 程	塗料名・処置	荷 姿	希釈率 (重量%)	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装回数	塗装間隔 (23℃)	塗装方法
素地調整	劣化している塗膜はケレン工具で除去する。さびは電動工具やサンドペーパーなどを用いて除去し、被塗面を清掃する。素地露出部は下塗を用いて補修塗りを行う。						
下 塗	アレスダイナミックプライマー	ベース:14.4kg 硬化剤:1.6kg	0~10 (塗料用シンナーA)	0.13~0.15	1	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー
上 塗	ラグゼMUKITOPマイルド	ベース:12.9kg 硬化剤:2.1kg	0~10 (塗料用シンナーA)	0.12~0.14	2	4時間以上7日以内	ハケ・ローラー

※標準所要量は被塗物の素材・形状、塗装方法などにより増減することがあります。

上塗

ラグゼMUKIトップ

15kg・4kg

※つや:艶有り、7つつや、
5つつや、3つつや



ラグゼMUKIトップマイルド

【15kgセット】

ベース:12.9kg、硬化剤:2.1kg

【3.5kgセット】

ベース:3.0kg、硬化剤:0.5kg

※ベース:硬化剤=6:1

※つや:艶有り、7つつや、
5つつや、3つつや



下塗

素材	適正下塗
コンクリート	アレスダイナミックファイラー、アレスホルダーHG、アレスダイナミック防水ファイラー、アレスダイナミックプラサフII、アレスダイナミックシーラーアクア、アレスダイナミックシーラーマイルド
モルタル	アレスダイナミックプラサフII、アレスダイナミックシーラーアクア、アレスダイナミックシーラーマイルド
産業界サイディング	アレスダイナミックプライマー、アレスダイナミック1液プライマー、スーパーザウルスII
金属系サイディング	アレスダイナミックプライマー、アレスダイナミック1液プライマー、スーパーザウルスII
鉄・亜鉛メッキ・アルミニウム	アレスダイナミックプライマー、アレスダイナミック1液プライマー、スーパーザウルスII
木部	アレスダイナミックプライマー、アレスダイナミック1液プライマー

《施工上の注意事項》

【共通事項】

- 本注意事項及びご使用になる下塗のカタログに記載の注意事項を必ずご確認ください。
- 塗後、乾燥不十分な状態で降雨・結露などで負荷が掛った場合や、低温、高湿度、通風の無い環境では、ふくれ、はく離、割れ、白化、シミなどが発生するおそれがありますので、塗装をさけてください。
- 可塑剤が多く含まれる部材(塩ビ鋼板、ゴムパッキン、ラミネート、合成皮革、プラスチック、シーリング材など)への塗装はさけてください。粘着や軟化が生じるおそれがあります。また、これら部材に直接塗膜が接触しないよう注意してください。
- 腐蝕されやすい素材(軽質モルタル、ALC、高断熱型窯業系サイディング、発泡ウレタン使用建材など)を用いた【高断熱型外壁】で、旧塗膜が弾性リシンや弾性スタック、アクリルトップなどの場合、そのまま塗装すると環境条件によっては水や温度の影響で塗膜がふくれたり、はく離が生じることがありますので、旧塗膜は完全に除去してください。
- 家具類(テーブル、カウンター、棚)、床、遊具類(ベンチやジャングルジムなど)への塗装はさけてください。
- 着色仕上げの際、雑巾やエスなどで強くすると、色落ちやつや変化が起こる場合がありますので、衣類などが触れる可能性のある部位への施工はさけてください。
- 気温5℃以下(低温)、湿度85%以上(高湿)での施工はさけてください。
- 屋外において降雨、降雪、強風のおそれがある場合は塗装をさけてください。
- 塗膜間隙は環境(温度、湿度、換気回数など)や隣間によって変わります。
- 所要量は、被塗物の形状や素材、塗装方法、環境などにより増減することがあります。
- 塗膜に降雨や結露の影響を受けた場合は、白化やつや引けなどの異状が生じやすくなります。山間部や河川近くなどの夜露の多い多湿地域では、より条件が厳しくなりますのでご注意ください。
- 躯体含水率が高い場合、断熱機能が十分でない場合、断熱機能が十分ではない結露の多い建物・換気効率が十分でない建物・温水管の止水処理が十分でない場合、居住者の方の生活環境などの違いで、塗膜の持つ透湿性能以上の水蒸気量が発生するケースでは、塗膜にふくれが発生することがあります。
- 塗装仕様書に記載の数値は標準のもので、被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件により多少の幅が生じることがあります。
- 塗膜性能を十分に発揮させるために、所定の塗り回数と塗付量確保による施工を行ってください。
- 適用可能な旧塗膜は下地との付着性に問題なく、活版であることとします。活版下地条件付き(付着強度が0.7N/mm以上)
- 旧塗膜に光沢が残っており変化していない場合には付着不良や塗り重ねちぢみが発生する場合があります。旧塗膜表面の目荒らしを行い、試し塗りによって確認の上塗装を実施してください。
- ぬい込みの多い下地では、「浸透形Mシーラー」【アレスダイナミックシーラーマイルド】を推奨します。
- ぬい込みの多い下地や素材の場合は、塗付量が多くなるので塗膜間隔を長めにとってください。また、上述までの塗装間隔が規定より短い場合、ちぢみ、割れ、剥離不良を起こすおそれがありますのでご注意ください。
- 被塗物の形状、艶厚や色目、塗回数、希釈率の違いにより、実際のつやと若干異なって見える場合があります。また塗り継ぎ箇所をつやむらが生じやすい傾向があります。試し塗りの上、本施工に入ってください。
- 本品を塗装の際は、中塗や上塗に塗り残しや透けがないようご注意ください。塗り残しや透けがある場合、紫外線の透過によりシーラー塗膜が紫外線劣化を速くし層間ではく離が生じるおそれがあります。
- ぬい込みの多い旧塗膜や新生瓦などの塗り替え時はシーラーを塗装後ガムテープで基材との密着性を確認し、はがれが生じる部分は塗膜をはく離し、その部分に再度シーラーを塗付してください。
- 鮮やかな赤系、黄系、青系、緑系の色で仕上げる場合は、隠ぺい性の良い共色であらかじめ下塗してから塗装を行ってください。
- 無機系樹脂、光触媒処理、ふっ素樹脂、シリコン樹脂など特殊な樹脂で処理された産業界サイディングボード面に塗装する場合は、下塗材としてアレスダイナミックシーラーマイルドをご使用ください。なお、事前に試し塗り付着性を確認してください。付着性に問題がある場合は、目荒らしを行ってください。
- 耐塩建材が弾出成形セメント板やGRC板の場合は、下塗に「浸透形Mシーラー」または「アレスダイナミックシーラーマイルド」をご使用ください。
- シーリング打設幅が広く、構造上大きな動きが予想されるシーリング打設部への塗装は、塗膜がひび割れる可能性がありますのでさけてください。
- シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離、伸縮割れ、粘着などの不具合が発生することがありますので行わないでください。やむを得ず行う場合は、本製品に対して「塗膜適合性のあるノンブリードタイプのシーリング材を用い、完全に硬化した後に行ってください。また、マルチタイルコンクリートプライマー-EPO、シーパ、アレス水性エポキシ樹脂を下塗とすることで、可塑剤移行による汚染、粘着の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、伸縮割れが起こることがあります。
- シーリング面は、塗膜が汚染・はく離・収縮割れを起こすことがあるため、マスキングテープなどで養生を行い、塗装をさけてください。シーリング材を打ち替える場合は、後打ちとし、可塑剤(油分)を含まないノンブリードシーリング材をご使用ください。
- つや調整品を仕上げる際は、塗り継ぎ部をつくらぬよう注意し、面を切って、通し塗りを行ってください。
- つや調整品は、艶厚、温度、塗色、塗回数、塗装方法、希釈率、主剤/硬化剤混合後の時間差などによりつやの発現性が変わります。特にローラー塗装時の塗り継ぎ部には厚膜となり、その部位のつやが高くなり、つやむらが生じやすい傾向があります。試験施工で仕上りを確認の上、本施工を行ってください。
- つや調整品は、高温などの乾燥が早い環境下ではつやむらが生じやすくなります。特に被塗面が直射日光で熱せられ高温になると塗膜の形成期の凹凸が増え、さらに塗膜厚が不均一になりやすくなるためつやむらが生じやすくなります。
- つや調整品は、使用中において塗料に含まれるつや消し剤が脱落しやすい場合がありますので、適宜かくはんしながらご使用ください。
- 補修塗り用として使用塗料の控えを必ずとっておき、同一ロット、同一塗装方法で補修塗装を行ってください。
- 補修塗りの際は、塗装方法や凹凸の違うにもよりに、仕上がり同じに若干の差が生じる場合がありますので、部分的に試し塗りした上で希釈量などを決定してください。
- ローラー塗装は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がり感が異なって見えることがあります。
- はけ塗り仕上げとローラー仕上げが併存する場合、仕上がり肌や色相に多少の差が生じます。
- 被塗面の洗浄に薬剤を用いた場合、水洗を入念に行ってください。被塗面に薬剤が残存したまま塗装すると、塗替え後の塗膜にふくれ、はがれ、白化などの異常をきたす場合があります。水洗後にpH試験紙を用いて被塗面に中性になっていることを必ず確認してください。
- 塗り替え塗装の前に、必ず高圧水洗やブラシを用いて、被塗面の付着物や劣化塗膜を十分に除去してください。下地調整が不十分な場合には塗膜はく離の原因となったり、光沢不足や色むらが発生するなど異常を生じるおそれがあります。

- 改修時の既存塗膜はく離箇所は、あらかじめ既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 改修時、漏水がみられる場合は、あらかじめ要因となっている箇所への防水処理を行ってください。
- 新設コンクリート面に塗装する場合、pH10以下、表面含水率10%以下(ケット科学社製CH-2型で測定した場合)、又は表面含水率5%以下(ケット科学社製H500シリーズ:コンクリートレンジで測定した場合)まで十分乾燥させてください。
- 水洗直後は下地表面の含水率が高くなりますので、十分に乾燥(含水率10%以下:ケット科学社製CH-2型で測定した場合)させた後に塗装してください。
- コンクリートの目潰し、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にし、表面のごみ、ほこり、エポキシセメント、レタダスなどの汚れを除去後、塗装を実施してください。
- 被塗物にカビや藻が繁殖している場合は、下地処理としてカビ・藻の除去および殺菌処理後、十分水洗し、乾燥してから塗装してください。
- 塗膜の部位にワックスやクリーナーなどが残存している場合には、はじきや付着不良の原因となりますので、十分に除去してから塗装してください。
- タイル洗浄薬剤が塗膜面に付着した場合、塗膜面の変色や早期劣化が生じることがありますので塗膜面の養生を行ってください。
- 防カビ防藻性は繁殖の抑制の効果を示すものです。施工部位の構造や形状、環境条件などにより、これらの効果が十分に発揮されない場合があります。
- 構造や部位、環境条件により低汚染性が発揮されない場合があります。(傾斜壁の下部、笠木がない壁、汚れが溜まりやすい窓周り、構地下部、降雨がつかない面や、シーリング材からの汚染物質の影響など)
- 塗料の希釈率は試験塗装などにより決定し、それに降は同じ希釈率で塗装してください。
- 規定時間を越えて希釈すると、はじき・光沢低下・色味変化・隠ぺい力不足など仕上りに異常をきたすおそれがありますので、所定の希釈率を遵守してください。また当該現場で一度定めた希釈率はなるべく同一にしてください。
- 使用前に塗料を均一にかき混ぜてください。特に濁り系塗料は保管期間が長いと容器内で顔料の分離が生じる場合がありますので十分かくはんの上でご使用ください。
- はけやローラーを共用で使用するとはじきなどが発生する場合がありますので、製品ごとに専用とるか、十分に洗浄後よく乾燥させたうえでご使用ください。
- 材料を使用前に内容物が均一になるように十分にかくはんし、開栓後は速やかに一度に使い切り、使用した塗料を元の容器(塗料缶)に戻さないでください。

【ラグゼMUKIトップ】

- 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用はさけてください。溶剤系塗料での塗装をおすすめいたします。
- 【ラグゼMUKIトップ】のつや調整品は「アレスダイナミック防水ファイラー」などの弾性タイプのファイラーにはご使用できません。その場合の下塗にはシーラー又は弾性フィラーをご使用ください。またその場合は、中塗・上塗での塗り重ねで施工してください。
- 水性パテ(合成樹脂エマルジョンパテ)は耐水性が劣るため、外部や浴室壁面などに使用すると、早期に塗膜はく離が生じる可能性がありますので使用しないでください。
- 結露が発生する場所では、塗料中の微量の水溶性成分が表面に溶出し粘着物となって析出することがあります。粘着物は水拭きや水洗で除去してください。
- ドアや手摺などの手が頻繁に触れる所では、手垢、皮脂、クリーナー、整髪料などの影響で塗膜が軟化し、塗り直しにより塗膜がはがれる事があります。このような部位には溶剤系2液ウレタン塗料をおすすめします。
- 水性塗料を塗装する場合はナイロン布を使用してください。靴もはきは回まったりだまになりやすいので使用しないでください。

【ラグゼMUKIトップマイルド】

- 長期経路結露が継続して発生するような箇所への塗装はさけてください。塗膜はく離、ふくれなどの異状が発生するおそれがあります。
- 塗料用シンナーで溶解する旧塗膜や下地の場合には塗装しないでください。(ちぢみ、にじみ、中うみ、割れなど発生する場合があります)
- 塗膜の乾燥硬化過程で、結露や降雨などの水分の影響を受けた場合、低汚染性能を損なう場合があります。水分の影響を受けるおそれがある場合は、塗装をさけてください。
- 異なる上塗で塗り重ねる場合(アクリルで帯状に色を塗り重ねる場合など)は、前工程の塗膜が塗料用シンナーAで溶解しないこと(硬化状態)を確認の上塗装を行ってください。
- 硬質塩ビ種やFRPの場合は、下地調整と目荒らしと樹脂を行った上で塗装してください。
- つや調整品で補修の必要が生じた際は、面を切り、通しで塗装してください。(部分的に補修すると一般部とつや差が目立ちます)つや調整品で面補修を行う場合は、1日以上乾燥させてから行ってください。
- 補修塗りは7日以内に行ってください。その上経過して補修塗りをすると、被塗面に水を露吹きで噴霧し、水溜りや水溜り現象を招いてください。水溜りが被塗面にたまり、養生している場合、周囲は既に新水化が現れており、主剤/硬化剤比率を遵守しても補修部が周囲よりも汚れる場合があります。この場合、区切りの良い面の補修塗りをしてください。
- 外壁塗装の足場などの補修塗りの際は、硬化剤の入れ忘れに注意し、主剤/硬化剤を正確に計量し配合してから塗装してください。硬化剤の入れ忘れや硬化剤不足の場合は汚染劣化が発生の原因になります。
- 低温時の使用では、硬化剤混合後、時間が経っても硬化しない場合がありますが、ポットライフを過ぎた塗料は使用しないでください。塗膜性能不良の原因になります。
- ペースと硬化剤を規定の混合比率で配合した後、十分かくはんした後で塗装に使用してください。
- 主剤と硬化剤の混合比率が正しい場合でも、仕上がり肌、耐熱軟化性、付着性、低汚染性、耐久性などの諸性能に影響しますので正確に計量し配合してください。
- 塗料の希釈に「塗料用シンナーA」以外のシンナーを使用した場合、再溶解やちぢみなどの不具合が生じることがあります。
- 塗膜の洗浄にはラッカーシンナーをご使用ください。
- 硬化剤は湿気を吸いやすいため、保管場所、保管状態に十分注意してください。また、湿気、水分と反応しゲル化変質しますので、開栓後は速やかに使い切ってください。
- 溶剤系塗料ですので、室内塗装では溶剤蒸気が滞留しないよう十分な換気をしてください。また、屋外塗装においても溶剤蒸気が換気から流入しないよう養生を行ってください。



《ご使用上の注意事項》

下記の注意事項を守ってください。
詳細な内容については安全データシート(SDS)をご参照ください。

【予防策】

取り扱い作業中・乾燥中とともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具(帽子・保護めがね・マスク・手袋等)を着用し、身体に付着しないようにすること。

吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。

皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前掛けを着用すること。

火気を避けること。静電気放電に対する予防処置を講ずること。
火災を発生しない工具・防爆型の電気機器・換気装置・照明機器等を使用すること。

裸火又は高温の白熱体に噴霧しないこと。

本来の目的以外に使用しないこと。

指定材料以外のものとは混合(多液品の混合・希釈等)しないこと。

缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。

取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。

使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。

本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

【対応】

目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。

皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、医師の診察を受けること。

吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。

飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。

漏出時や飛散した場合は、砂、布類(ウエス)等で吸い取り、拭き取ること。

火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

【保管】

指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

【廃棄】

本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)

【施工後の安全】

本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp



お近くの営業所は
こちらから!

各種カタログご覧になれます。

*本カタログの内容については、予告なく変更することがありますのであらかじめご諒承ください。

(25#03月01日PKO) カタログNo.982